

**プレスリリース****What about: 29th Brno International Graphic Design Biennial 2020****どうなる？ 第 29 回ブルノ国際グラフィックデザイン・ビエンナーレ 2020****2019 年 7 月 30 日（火）－ 8 月 29 日（木）****The White（東京・神保町）**

13:00 – 19:00（7/30、8/28・29 は 18:00 まで）

日・月曜日、8 月 11 日（日）－ 8 月 18 日（日）休廊

主催：アイデア編集部 企画：ラディム・ペスコ、åbåke、ソフィー・デデレン、アイデア編集部

協力：The White、Frans Maserel Centre、RONDADE

特別協力：イワン・ダート（Frans Maserel Centre）

■企画概要

2018 年の開催で 28 回を迎えたチェコのグラフィックデザイン・ビエンナーレ「ブルノ国際グラフィックデザイン・ビエンナーレ」が、2020 年以降の開催中止を余儀なくされています。本展は、ビエンナーレの続行を目指して企画されたデザイン誌『アイデア』誌上での架空のビエンナーレ「第 29 回ブルノ国際グラフィックデザイン・ビエンナーレ 2020」のために各国のグラフィックデザイナーより集められたポスター作品を展示紹介するものです。

ブルノ・ビエンナーレは 1960 年代にチェコスロバキアの都市ブルノで始まった展覧会で、冷戦体制下のアーティストやデザイナーが自由な表現や権利、国際的な評価の場を求めるなかで誕生したものです。1964 年に国立モラヴィア・ギャラリーによって創設・主催されて以来、拡張するグラフィックデザインという分野や、視覚文化とその重要性に関連した、展示、会議、関係プログラムを行う国際舞台として認知されてきました。しかし、主催のモラヴィア・ギャラリーは、2020 年以降のビエンナーレの開催中止を決定し、これまでビエンナーレに関わってきた欧州のグラフィックデザイナーたちを中心にその是非が問われています。

1953 年の創刊以来、国際的なグラフィックデザインの動向を取り上げてきたデザイン誌『アイデア』（誠文堂新光社）では、2016 年度のキュレーターを務めたデザイナーのラディム・ペスコと、同展の招集デザイナーであったデザインチーム åbåke の 2 組からの呼びかけにより、今年 6 月に刊行した最新号（No. 386）にて世界各国のデザイナー 26 組より寄稿された全 28 点のポスターを掲載、ビエンナーレの置かれた状況を提示しました。本展では、誌面では見開きにまたがった掲載となった各作品をポスターとして展示するとともに、今後のブルノ・ビエンナーレやデザイン・ビエンナーレの在り方を考える場としていきます。

関係の皆さん

すでにお聞きかもしれませんが、ブルノ・ビエンナーレを主催するチェコ国立モラヴィア・ギャラリーは、次回である 2020 年にビエンナーレを開催しないことを決定しました（おそらくはそれ以降も）。ブルノ・ビエンナーレは 1964 年以来開催を続けてきました——もちろん物事は変わり、永遠のものではありませんが……。

しかし、このままビエンナーレを終わらせるのは残念なことだと思った私たちは、第 29 回ブルノ・ビエンナーレ 2020 に代わる、もうひとつの現実をつくることにしました。

そこで皆さんにおうかがいしたいのですが、第 29 回ブルノ国際グラフィックデザイン・ビエンナーレ 2020 に向けてポスターのデザインをお願いできないでしょうか？

内容は問いませんが、時空連続体の消滅、あるいはそれに代わるものの創造（量子物理学から『バックトゥザフューチャー』にいたる何かを考える、あるいは他の何でも）などは、考えられるひとつの様式です。

こちらから金銭的な見返りは何もないうえ、雑誌掲載にあたるデータの締め切りは 2019 年 5 月 15 日と、時間的にも重荷だと思います。ただ、『アイデア』誌上で見開きのポスター／イメージを掲載することによって、それを実現可能にできるのです。いかがでしょうか？

よろしくお願いします。

ラディム・ペスコ、åbåke、ソフィー・デデレン、アイデア編集部



出展ポスター

左) デザイン : Radim Peško

右) デザイン : åbäke

■参加デザイナー

Radim Peško

ロンドンを拠点に活動するデザイナー・タイポグラファ。2011年から16年まで、ブルノ・ビエンナーレの組織委員会に所属し、第26回・第27回ビエンナーレの共同キュレーターを務めた。ロイヤル・カレッジ・オブ・アート（イギリス）とECAL修士コース（スイス）でタイプデザインを指導している。

<https://radimpesko.com/>

åbäke

ロンドンを拠点に活動するグラフィックデザイン集団。パトリック・レイシー、ベンジャミン・レイキン、カイサ・ストール、マキ・スズキのメンバー4人は、イギリスのロイヤル・カレッジ・オブ・アートを卒業した2000年から活動を共にする。ポスターやCDジャケットのデザインからインスタレーション、イベント主催、音楽レーベルでもあるKitsunéほか、多岐に渡る活動を行う。

<http://abake.fr/>

Sulki & Min

韓国・ソウルを拠点に活動するグラフィックデザイナー。出版物からインスタレーションまで、幅広い作品が国際的に認められている。ブルノ・ビエンナーレとの関わりとしては、2012年に国際審査員を務めたのち、2014年には「Off-White Paper」と題する展示企画と出版物を発表した。

<http://www.sulki-min.com/wp/>

David Pons & Lissana Jouret

David Pons はグラフィックデザイナーとして、Lissana Jouret

はアーティストとして、フランス東部のヴァランスを拠点に活動している。エキゾチズム、精神世界、ポップカルチャーなどに関心があり、写真、編集、インスタレーションを通してそれらを作品へと「翻訳」している。

@david.pons & @nadege_delacompta

Bibliomania: Alexandru Balgiu & Olivier Lebrun

本+愛+楽しさ=Bibliomania

Zak Group

Zak Kyes は、Zak Group の創設者兼クリエイティブディレクター。デジタルプラットフォーム、ブランドアイデンティティ、アーティストや美術館とのコラボレーションなど、幅広い事業とデザインプロジェクトを展開している。

<https://www.zak.group/>

Tamara Maletic / Linked by Air

芸術、教育、デザインに対する私たちの情熱は、私たちのクライアントに反映されている。私たちの規模はほかに類を見ないものだが、私たちは最先端のビジュアルデザインと複雑なプロジェクトを引き受ける能力、そして制度を変革する能力を兼ね備えている。私たちのデザイナーと開発者は緊密に協力し、お互いに触発されている。

<https://www.linkedbyair.net/>

アーロン・ニエ

アーロン・ニエは、数々の受賞歴のあるグラフィックデザイナー・アートディレクター。国際グラフィック連盟（AGI）メンバー。現在は台北でスタジオ「Aaron Nieh Workshop」を主宰している。

<http://aaronnieh.com/>

Laura Pappa & Elisabeth Klement

Laura Pappa & Elisabeth Klement はアムステルダムを拠点に活動するグラフィックデザイナー。彼女たちが取り組むノンコミッションワークには、教育、キュレーション、オーガナイゼーション、出版など、協働／共闘関係のもと実施される様々な活動が含まれている。これまでの主な活動としては、アスタリスク・サマー・スクール（エストニア）の運営のほか、無名のグラフィックデザイナーたちによる国際展示会「Signals from the Periphery」（タリンアートホール、2017年夏）のキュレーションなどがある。

<https://www.laurapappa.biz/>

<https://www.elisabethklement.com/>

Noviki: Katarzyna Nestorowicz & Marcin Nowicki

Noviki は、グラフィックデザインとその周縁領域の境界を絶えず再定義するような、批評的なデザインアプローチを行うデザインスタジオ。アーティストやキュレーターとの密接な対話を通じて、出版、キュレーション、展覧会実践など、既存の「芸術」の枠組みに留まらない幅広いメディアへとその探求を広げている。

<http://www.noviki.net/>

秋山伸

グラフィックデザイナー／パブリッシャー。1990年代半ばから、美術・建築の書籍や展覧会のデザインを数多く手がける。2010年末に東京の事務所「schtücco」を解散し、新潟の豪雪地帯に移住。2011年より自社の出版レーベル「edition.nord」をベースにソロ活動を開始。ブルノ・ビエンナーレでは、2012、2016、2018年の国際展に選出され、最後の2回には現地を訪れている。現在、造本装丁コンクール審査員、ミームデザインスクール講師。

<http://editionnord.com/>

Alice Gavin & Valentin Bigel at Groupe CCC

クリエイティブデザインスタジオ「Groupe CCC」は、Alice Gavin と Valentin Bigel のメンバーから構成される。2人は友人同士であるとともに仕事上のパートナーでもあり、スタジオは新しいコラボレーションのかたちを目指してインターネット上で運営されている。

「Groupe CCC」は複数のプロジェクトの総称でもあり、個々のプロジェクトはグローバルリサーチの一翼を担う。それぞれのプロジェクトが互いに影響し合い、その総体自体がグローバルな循環を示している。

<http://www.groupeccc.com/>

Alyssia Lou

Alyssia Lou は、ロンドンを拠点に活動するフランス出身のグラフィックデザイナー。フランスの大学を卒業後、デザイン

の実践を発展させるためにロンドンへ移住。彼女の作品は、通俗的ではないリアリティと日々に出会いにインスパイアされている。ロンドンを拠点に活動するスタジオ「OK-RM」とのコラボレーションも行っている。

<http://alyssialou.com/>

LPPL

LPPL は、ロンドンを拠点に活動するアーティスト、壁画家、イラストレーター。彼女がデザインしたアルカマル映画祭のロゴは、フランス・ダンケルクにある美術館 FRAC Grand Large にコレクションされている。

Katja Gretzinger

Katja Gretzinger は、ベルリンを拠点に活動するグラフィックデザイナー・デザインリサーチャー。デザインに関する知識と実験、そしてその制作と調停に関心がある。文化領域でエディトリアル、ポスター／タイプデザインを中心に活動している。

<http://www.katjagretzinger.com/>

In the shade of a tree:

Sophie Demay & Maël Fournier-Comte

Sophie Demay と Maël Fournier-Comte によって 2018 年に設立された、ロンドンとパリに拠点を置くグラフィックデザインスタジオ。公的機関、アーティスト、キュレーター、フェスティバル、デザイナーらと密接な協働を行っている。

<http://in-the-shade-of-a-tree.com/>

Jon Sueda & chris hamamoto

Jon Sueda は、アート・カルチャー系の印刷と展示デザインに特化した「Stripe SF」の創設者で、カリフォルニア芸術大学の MFA デザイン課程の教授。

christopher hamamoto は、サンフランシスコのベイエリアを拠点に活動するデザイナーで、カリフォルニア芸術大学助教授。（クライアントに頼らない）自律的なグラフィックデザインの実践を行っている。

<http://www.stripesf.com/>

<http://chrishamamoto.com/>

Jean-Claude Chianale

パリを拠点に活動するグラフィックデザイナー／作家。

<http://www.jeanclaude-design.com/>

ナ・キム

ナ・キムは、ソウルとベルリンを拠点に活動している。Table Union メンバー。主にアート・カルチャー系の仕事を手がけながら、視覚言語にフォーカスしたセルフ・プロジェクトも積極的に展開している。2015年ニューヨークでの「SET」を

はじめ多くの個展を開催。V&A や MoMA などでの国際展にも参加多数。キュレーターとしても活動し、フィクラ・グラフィック・デザイン・ビエンナーレにはアーティストック・ディレクターのひとりとして携わった。

<http://ynkim.com/>

服部一成

グラフィックデザイナー。1964 年東京生まれ。1988 年東京藝術大学美術学部デザイン学科卒業。ライトパブリシティを経て、2001 年よりフリーランス。主な仕事に「キューピーハーフ」などの広告、雑誌『真夜中』『流行通信』『here and there』のアートディレクション、美術展ポスター・告知物のデザイン、ブックデザイン、ロゴタイプなど。作品集に『ggg BOOKS 95: 服部一成』（DNP アートコミュニケーションズ）、『服部一成グラフィックス』（誠文堂新光社）。

Mevis & van Deursen

Linda van Deursen と Armand Mevis は、アムステルダムを拠点に活動するグラフィックデザイナー。2012 年に行われた第 26 回ブルノ・ビエンナーレにおいて、アムステルダム市立美術館で行われた特別展「Temporary Stedelijk」のアイデンティティがグランプリを受賞した。

Betsy Bickle

ニューヨーク出身のグラフィックデザイナー。1970 年代に活動を開始し、2012 年以降はアメリカのテレビドラマ『ザ・ワイヤー』の登場人物トミー・カルケティの架空の大統領選挙運動を支援している。

Pinar&Viola

2009 年に Pinar Demirdag と Viola Renate によってアムステルダムで設立されたクリエイティブスタジオ。ファッションとテクノロジーのための特殊な効果を用いて、時代精神を体現する美的イメージを生成している。美と人を惹きつけるデザインの力を通じて、社会正義、豊かさ、繁栄、意識的かつ健康的な世界の実現をめざしている。

<https://www.pinar-viola.com/>

Wayne Daly & Shumon Basar

Wayne Daly は、Claire Lyon とともに「Daly & Lyon」を主宰している。タイポグラフィ、イメージ、マテリアルに対して協調的かつ反省的なアプローチをとり、ICA ロンドン、テートブリテン、ハンブルグのクンストフェアラインを含むクライアントと協働している。Wayne は RolandFrüh とともに、スイス・ローザンヌのエコール・カントナーレ美術学校のタイプデザイン課程修士コースで論文の指導も行っている。

Dan Eatock

<http://www.eatock.com>

Ryan Gander with Zbigniew Zulfawski

ライアン・ガンダーは、英国サフォークとロンドンを拠点とするアーティスト。マンチェスター・メトロポリタン大学とオランダの王立アカデミーおよびヤン・ファン・エイク・アカデミーで学び、現在は、英国ハーダズフィールド大学で視覚芸術の教授を務める。

ガンダーの芸術観は、作品だけではなく、作品にまつわる思考をも重視する点に特徴があり、作品は鑑賞者の想像力を活性化し、新たな思考回路を生み出し、物事の認識を拡張してくれる。制作の背後には、美術全般についての考察、見ることについての洞察、日常経験の分析など知的な思考が満ちており、その手法は意外なものの結合、架空の状況の設定、情報の部分的な隠蔽、ユーモアの導入、過去と未来への誘導など、一風変わっているようでありながら、理にかなない示唆に富んでいる。

■関連リンク

第 29 回ブルノ・ビエンナーレ

<http://www.29.brnobienale.org>

第 27 回ブルノ・ビエンナーレ

<http://27.bienalebrno.org>

第 26 回ブルノ・ビエンナーレ

<http://www.26.bienalebrno.org>

アイデア 386 号

http://www.idea-mag.com/idea_magazine/386/

■開催概要

会期：7月30日（火）－8月29日（木）

毎週日曜日・月曜日・8月11日（日）－8月18日（日）お盆休み

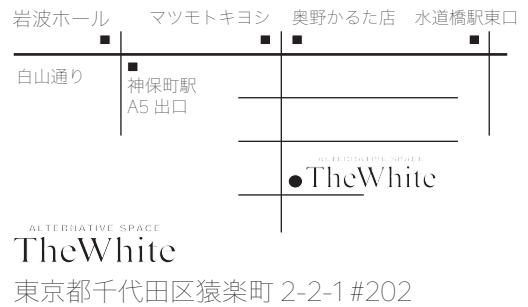
時間：13:00－19:00（7/30、8/28・29は18:00まで）

会場：The White

東京都千代田区猿楽町2-2-1 #202

<http://www.the-white-jp.com>

入場無料



■関連イベント

【オープニングトーク】ブルノ・ビエンナーレのこれまで

登壇予定：åbåke（本展参加デザイナー）、室賀清徳（編集者）、イエン・ライナム（デザイナー）

日程：7月30日（火）

時間：19:00－20:30（開場 18:30）

会場：The White

参加料：1,500 円（定員 20 名、事前予約制）

参加予約：会場メールアドレス宛に申し込みください。

mail@sawadaikuhisa.com（イベント名、お名前、お電話番号、参加人数をご記載ください）

2018 年までのブルノ・ビエンナーレのあゆみを振り返りつつ、2016 年度のビエンナーレにて展示企画を行った åbåke のメンバーと、日本より企画に参加した室賀清徳氏、イエン・ライナム氏にその取り組みについてお話をうかがいます。

【クロージングトーク】2つのビエンナーレから考える「グラフィックデザイナーと展覧会」

登壇予定：秋山伸（本展参加デザイナー）、後藤哲也（デザイナー）

日程：8月28日（水）

時間：19:00－20:30（開場 18:30）

会場：The White

参加料：1,500 円（定員 20 名、事前予約制）

参加予約：会場メールアドレス宛に申し込みください。

mail@sawadaikuhisa.com（イベント名、お名前、お電話番号、参加人数をご記載ください）

本展のもととなった「第 29 回 ブルノ国際グラフィックデザイン・ビエンナーレ 2020」を掲載した『アイデア』386 号では、昨年 11 月にアラブ首長国連邦で開催された中東初のデザイン・ビエンナーレ「フィクラ・グラフィック・デザイン・ビエンナーレ」を特集しました。企画編集を担当した後藤哲也氏による同ビエンナーレのレポートを出発点に、ブルノ・ビエンナーレへの参加をはじめ、グラフィック関連の展示活動に精力的に取り組むデザイナーの秋山伸氏を交え、「グラフィックデザイナーと展覧会」について考えます。

■お問い合わせ

誠文堂新光社アイデア編集部（担当：西）

〒113-0033 東京都文京区本郷 3-3-11

TEL 03-5805-7763 FAX 03-5615-8192

info@idea-mag.com

<http://www.idea-mag.com>